

総 括

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価実施年月	平成 24 年 5 月 ～平成 24 年 9 月
公表年月	平成 24 年 12 月
対象サービス	横浜保育室
対象事業所	アスク山手保育室
事業所（所在地）	横浜市中区大和町 1-30-2

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

【施設の特色】

1. 立地環境

当保育室は JR 根岸線山手駅から徒歩 5 分、商店街の裏側の道に位置し、住宅街の静かな環境にある。また、近くには自然の姿を残した仲尾台公園、桜公園などの大小の公園があり、子どもたちの散歩コースになっている。

2. 多くの外国籍の子どもが在籍

小規模園にも関わらず、横浜の山手という地域特性として外国籍の子どもが多い（23 年度 8 名、24 年度は 4 名）。子ども同士はごく自然に日常生活を楽しんでいる。職員は折に触れ外国籍の子どもに国の言葉などを子どもに説明している。また、2 歳児には専門講師による「英語教室」が行われている。

【特に優れていると思われる点】

1. 丁寧な対応とアットホームな雰囲気

定数は 0～2 歳児の 35 名、在籍は 23 名の小規模園で、職員は全園児を把握し、子どもに対し丁寧な対応を行っている。また日常的に異年齢の交流を行い、子ども同士も楽しく過し、いかにもアットホームな雰囲気になっている。

保護者からは、子どもに対する対応について高い評価を得ている。保護者アンケートでは、総合評価と職員の対応については不満が 0%である。新入園児が入園すると、紹介を兼ねた催しをしている。「生活記録簿」には、家からのケガは黒字、園でのケガは赤字で子どもの状況を記入して保護者との連絡を分かりやすく工夫している。

2. 保護者に対する開かれた運営

年 3 回開催されている運営委員会には保護者の代表として 3 名がいる。会議では収支の報告、運営方針の説明、重要な意思決定の説明などがある。

一方、保護者全員がメンバーである保護者会は、行事の後に懇親会を兼ねて行うことが多い。保育課程、運営方針、園目標などの説明が行われている。

行事、保育参観などを通じ保護者と日常的に接する機会を設けて信頼関係を構築している。保護者一緒のならし保育をして、「ママ食」として保護者による給食の試食もある。

3. 健康な体作り

園目標の一つに「健康な体を作る」を掲げている。園では天気がよければ散歩やプールなどの屋外活動を積極的に行っている。散歩は子どもの発達状態に応じ、遊具で遊べる公園、アリなど小動物に触れ合える公園などに行っている。2歳児には運動能力を高めるため、階段のある公園や歩く距離などを計算に入れて散歩を行い、子どもに達成感を味わえるような工夫を行っている。

【改善を期待したい点】

1. 職員の研修体制

設置法人が制定している「保育士人材育成ビジョン」に基づき、園長は半期に一度職員と個人面談を行い、研修計画を作成していますが、自由選択の研修では職員の自主性を重んじ行われているため、職員間での差が生じています。園長は職員との今まで以上に実りある個人面談を行い、園にとっても職員にとっても成果のある研修への参加を期待します。

2. 子育て支援サービスの提供

地域の子育て支援ニーズを職員間で話し合い、一時保育を行っています。しかし、情報の収集やサービスの提供が十分とは言えません。園の行事に参加する人、園の見学者など地域住民と接する機会を積極的に活用し、地域の人々から直接子育て支援ニーズの情報把握を行い、当園が地域に開かれ、地域に根ざした保育園を期待します。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- 子どもへの言葉遣い、対応については日々の保育の中で相互に配慮し、職員会議でも話し合っている。
- 子どもに接するときは、職員はゆっくりと分かりやすい言葉を使い、「早く行ったらいっぱい遊べるよ」と話したり、間違った行為はその場で説明し、「どうしてもしたかったんだね」とおだやかに話をし、子どもの気持ちを受け止めるようにし、発達や年齢に応じて丁寧に対応している。
- 個人情報の取り扱い、守秘義務については、横浜市の個人情報取扱いガイドラインにより常に全職員へ周知し、保護者へはクラス懇談会で説明し了解を得ている。
- 個人情報が記録してある書類ファイル類は事務所内の施錠の出来る場所に保管し、園外持ち出しは禁止している。
- 名簿は誕生日順にしており、遊具、持ち物、服装、行事・役割、色、名前シールなど性別による区別せず、順番、グループ分け、整列を男女別に分けたりはしていない。
- 職員は子どもや保護者に対して話すときは、女の子だから、男の子だからという観念を持たず、表現内容に気を配っている。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向け

- おもちゃは全体的に少なめだが、0、1歳児の子どもは、遊びたいおもちゃを自分でかごや棚から取りだして遊べるようにしている。絵本は全ク

<p>たサービス提供</p>	<p>ラスで、子どもの手の届く高さに置いてあり、自分で読みたいときに読みたい絵本を取りだして読んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2歳児クラスでは落ち着いて遊べるように、コーナーを作って自由に遊んでいる。また、指先を使った細かい遊びもするため、小さめのブロックを用意して、ブロック遊びをしている。 ・子どもの発想にできる限り耳を傾けている。例えば、散歩では子どもたちは自由にかけっこ、ボール遊びをしていて次第に参加者が増え集団での活動に繋がることもある。園庭ではプランターでトマト、ピーマンなどを栽培し、子どもたちは水やりをし、野菜などの成長を楽しんでいる。また、食材として使用したりしている。 ・食事は早く食べる子ども、なかなか進まない子どもなどそれぞれいるが、保育士はその子どもに応じたペースで、言葉掛けや介助をしている。無理やり食べさせたりすることはなく、完食の喜びを持てるようにしている。 ・食器は強化磁器製でコップはプラスチック製のものを使用している。スプーン、フォークは子どもが持って危険のない様な長さ、大きさのものを使用している。また、スプーン、フォークは0歳児には、やけど対策でプラスチック製、1歳児、2歳児はステンレス製のものを使用している。 ・職員は子どもの好き嫌いを把握して食欲を促すために、野菜や魚など量や盛り付けを工夫している。 ・園では生活・睡眠記録簿（保育日誌）に子ども毎の排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄状況を把握している。また1、2歳児には、活動の節目にトイレを促しているが、強制はしていない。行きたいときにトイレに行っている。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念として『自ら伸びようとする力』『後伸びする力』『五感で感じる保育』、園目標として「健康な身体を作る」「ありがとう、ごめんなさい」と素直に思える心を育てるを掲げ、利用者本人を尊重したものとなっている。 ・入園前に必ず園長・クラス担任は保護者と個別面談を行い「入室のご案内」に基づき園での生活など説明している。また、できるだけ子どもも一緒に来てもらい職員は子どもの遊んでいる様子などを観察している。 ・ならし保育については入園前に保護者に説明し、親子一緒のならし保育を実施し、期間はおよそ4日～7日ぐらい行っている。 ・年間指導計画は年齢別、4期に分けて作成し、期ごとに評価、反省を行っている。月間指導計画は月ごとに評価、反省を行い翌月の計画に反映させている。また、0～1歳児だけでなく2歳児にも月間個別指導計画を立てている。個別指導計画は、ねらい、内容、配慮、評価、反省で構成されている。 ・園の清掃は、職員が清掃マニュアルに基づき行われ、清潔に保たれている。その内容は清掃記録表に記録している。また、換気は毎朝早番職員が定期的に行っている。換気扇は必要に応じ運転している。また、ゴミ箱の

	<p>蓋に芳香剤を貼り付け気になる臭いを取り除いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育上、特に配慮を要する子どもへの対応では、設置法人の臨床心理アドバイザーを要請し助言を受けたり、また、園長会議で特に配慮を要する子どもに関する話し合いが行われた時、園長はその内容を職員会議で話し合い接し方や言葉掛けなどを学習している。 ・外国籍の保護者から入園時や送迎時に、文化や生活習慣や子育ての違いを聞き、その違いを尊重して対応している。横浜の山手という地域柄、外国籍の子どもが多い。子ども同士はごく自然に日常の生活を楽しんでいるが、職員は折に触れ外国籍の子どもの国の言葉などを子どもに説明している。また、2歳児には専門講師による英語教室が行われている。 ・要望・苦情受付の担当は園長であることを年度初めの保護者会で伝えて保護者に周知し、また苦情受付の設置法人の連絡先を「アスク山手保育室・入室のご案内」に記入し、玄関にも掲示して周知している。 ・園単独で解決が困難な問題に対し、設置本部の担当部署、エリアマネジャーを交えての話し合い、あるいは中区子ども家庭支援課などと連携し対応できる仕組みができています。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流・連携の中で、園では中区こども家庭支援課主催の研修やイベントへの参加、子育て支援に関する区役所との話し合い、また、約30名参加の中区園長会の会議に出席し子育て支援に関する情報交換を行っている。 ・地域住民との交流のため、保育園の行事、例えば、夏祭りの案内ポスターを園の玄関に掲示し、卒園児に招待状を発送している。夏祭りではゲーム、唐揚げ、ブランコの券を発券し、地域の子どもの参加を得ている。 ・中区のグランマ保育園事業に参加し、区が購入した絵本を、地域の方などへ貸し出しを行っている。 ・園の遠足では、根岸森林公園、野毛山動物公園、横浜ズーラシア、臨時パークそしてはまぎん宇宙センターなどの施設を利用している。 ・散歩で商店街を通るとき、出会う方には積極的に挨拶を行い、商店街の魚屋さんでは子どもは魚を見て、0歳児から1歳児は「怖い」と言い、2歳児となると「さわって喜ぶ」子どももいる。また、クッキングの際の食材の野菜、卵を商店街で買い物して友好を深めている。 ・見学については、問い合わせがあった時には、見学が出来ることを伝えている。見学希望者の都合に合わせて希望の日時を聞いて、保育に差し支えないように対応している。子どもがおやつを食べるところを見学してもらうなどの工夫をしている。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人が作成した園のホームページには、園の情報やクラスの様子、利用料金などを掲載している。また、中区の子ども家庭支援課にはパンフレットを置いてもらい、園見学や入園の情報を提供してもらっている。 ・事業者として守るべき法・規範などは就業規則の中の倫理に関する規定

	<p>があり、事務所に備え付けられいつでも確認できるようになっている。また、入社時に法人代表による法令遵守、倫理などについて研修を受け職員に周知している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他施設での不正や不適切な情報は主として設置法人から届くようになっている。また、それらの情報について園長会議でも話し合いが行われている。入手した情報は職員会議を通じ職員に周知している。 ・事業運営に影響のある情報収集・分析は設置法人の担当部署で行っている。それらが送られてくると、園では必要に応じ検討している。 ・次代の組織運営に備え、園では子育て支援、地域の保健福祉との連携などを検討している。 ・設置法人の担当部署で収集・分析された情報は隔週で開催される園長会議で検討されている。また、必要に応じて、園長は園長会議での内容を職員会議などで報告し、話し合いをしている。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人が職員の階層別に研修計画を策定し、園の理念・方針をふまえた保育をするための人材育成を図っている。 ・設置法人が職員の年間研修計画を策定している。常勤・非常勤とも研修会に参加することができ、園長が受講希望を把握している。 ・研修計画は職員が個人目標を立て、園長に提出している。職員は前期・後期に自己査定シートに基づき評価を行い、園長と面談の機会もあり、半期毎に振り返りをして達成度を確認、評価し、次年度につなげている。 ・研修受講後は研修レポートを提出し、職員会議で報告し、職員間で閲覧して共有し、実践に活かすように努めている。 ・職員は年間目標を立て、自己評価表を記入し、年2回の査定・昇級時に行っている。園長の面談でも自己評価を行い、サービス内容を再確認している。 ・姉妹園6園の子どもの年齢別研修では、学習するテーマを話し合い、実技、観察などを行い、一層のサービス向上を目標とした勉強会を実施している。




(フォント：丸ゴシック、ポイント：見出し1 2・本文1 1に設定してあります。)

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念として『自ら伸びようとする力』『後伸びする力』『五感で感じる保育』、園目標として「健康な身体を作る」「『ありがとう、ごめんなさい』と素直に思える心を育てる」を掲げ、利用者本人を尊重したものとなっている。 ・年度初めの職員会議で全職員を対象に、保育理念、基本方針、園目標などについて確認している。新しく入った職員には個別にオリエンテーションを行い伝えている。 ・保育課程は年度初めに正規の全職員が子どもの利益を最優先に作成し見直しを行い、非常勤職員にも職員会議などを通じて周知している。 ・地域の環境としては、地形が起伏に富んでおり、坂道や階段が多く、また、保護者の勤務場所が遠く、送迎が祖父母という家庭や外国籍または片親が外国人という家庭が多いので、それらの保護者の実態を考慮しながら保育課程を作成している。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に必ず園長・クラス担任は保護者と個別面談を行い「入室のご案内」に基づき説明している。その時には、できるだけ子どもも一緒に来てもらい職員は子どもの遊んでいる様子などを観察している。子どもが同席できない場合はならし保育のときに観察している。 ・ならし保育については入園前に保護者に説明し対応している。園では親子一緒のならし保育を実施し、新入園児全員がならし保育をおおよそ4日～7日ぐらい行っている。 ・0、1歳児の新入園児については職員数の関係で主担当者を決めていないが、クラスリーダーを中心に子どもとの信頼関係が構築できるようにしている。 ・年間指導計画は年齢別、4期に分けて作成し、期ごとに評価、反省を行っている。また、月間指導計画は月ごとに評価、反省を行い翌月の計画に反映させている。
<p>I-3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の清掃は、職員が清掃マニュアルに基づき行われ、清潔に保たれている。また清掃記録表に記録している。 ・換気は、毎朝早番職員が定期的に行っている。換気扇は必要に応じ運転している。また、ゴミ箱の蓋に芳香剤を貼り付け気になる臭いを取り除いている。 ・温湿度の基準値は文書化されていないが、体感温度で温度は27度前後、湿度は50%を目安に管理している。また、必要に応じ空気清浄器、加湿器を使用している。 ・1歳児・2歳児クラスでは部屋を、食べる・遊ぶ・寝るなどの機能別に分けて使用している。また、2歳児クラスではロッカーを利用してコーナーを作り、園児たちはそこでいろいろなごっこ遊びなどができるようになっている。 ・0歳児クラスには保育室内に沐浴・シャワー設備がある。それらは毎日清掃し清潔に保たれている。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～1歳児だけでなく2歳児にも月間個別指導計画を立てている。個別指導計画は、ねらい、内容、配慮、評価、反省で構成されている。
- ・個別計画は月一回を目安に評価・見直しを行っているが、子どもの発達状況により臨機応変に対応している。
- ・子ども一人ひとりの記録は入園時の面接シート、児童票、児童健康調査表（身体測定記録、健康診断）などの成長記録も個別にファイルし職員はいつでも見られるようになっている。
- ・進級時には子どもが安心して過ごせるように重要な申し送りを進級時引継ぎ記録として残し、適切に引き継がれるようになっている。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する個別のケースについては毎月開かれる職員会議（ケース会議）で話し合いを行い記録も残している。
- ・障がい児保育の環境整備として建物の構造上難しい状況にあり、現時点で障がい児の受入れを行っていないが、障がい児保育に関しては設置法人の臨床心理アドバイザーや看護師などへ相談できる体制にある。また、職員は希望すれば社内研修や横浜市の研修に参加している。
- ・虐待防止マニュアルに虐待の定義、防止のポイント、対応指針、諸機関との連携などの記載があり、全職員が周知している。また、虐待の予兆があった場合は、先ず設置法人に連絡し、その指導で中区福祉保健センター家庭支援課や横浜市中央児童相談所などに相談できる体制にある。
- ・職員はアレルギー疾患や障がいに関する内部研修を受講しアレルギーについての知識を周知している。また、アレルギー疾患のある子どもの保護者と相談し、栄養士が中心となって代替食を提供している。0歳児が離乳食から完了食に移行する際には保護者、栄養士、担任とできめの細かい相談をしながら対応している。
- ・外国籍の保護者から入園時や送迎時に、文化や生活習慣や子育ての違いを聞き、その違いを尊重して対応している。
- ・山手という地域柄外国籍の子どもが多い。2歳児までということもあり、子ども同士はごく自然に日常の生活を楽しんでいる。

<コメント・提言>

- ・障がい児の受入れについて中区役所保健センター家庭支援課とのより以上の連携を図り受入れを期待します。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



- ・要望・苦情受付の担当は園長であることを年度初めの保護者会で伝え、また設置法人の苦情受付連絡先を「アスク山手保育室・入室のご案内」に記入し、玄関にも掲示して周知している。
- ・玄関に意見箱を設置し無記名で要望・意見がもらえるようにしている。また保護者との年2回行っている個人面談や行事の後にアンケートをとったりし、保護者の要望や苦情を積極的に聞くようにしている。
- ・他機関の苦情窓口として、かながわ福祉サービス運営適正化委員会のポスターを玄関に掲示してある。また、「中区こども相談」のパンフレットを玄関に置き苦情解決窓口を紹介している。
- ・園単独で解決が困難な問題に対し、設置本人の担当部署、地域を統括しているエリアマネジャーを交えての話し合い、あるいは中区子ども家庭支援課などと連携し対応できる仕組みができています。
- ・「業務マニュアル」の苦情処理に沿って対応が行われ、その内容は職員会議での話し合いを行い、理解・周知されている。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅱ-1 保育内容[遊び]



- ・おもちゃは全体的に少なめだが、0、1歳児の子どもは、遊びたいおもちゃを自分でかごや棚から取りだして遊べるようにしている。職員が子どもたちの希望を聞いて取り出すものもある。絵本は全クラスで、子どもの手の届く高さに置いてあり、自分で読みたいときに読みたい絵本を取りだして読んでいる。
- ・2歳児クラスでは落ち着いて遊べるように、コーナーを作って自由に遊んでいる。また、指先を使った細かい遊びもするため、小さめのブロックを用意して、ブロック遊びをしている。
- ・子どもの発想にできる限り耳を傾けている。例えば、散歩では子どもたちは自由にかけっこ、ボール遊びをしていて次第に参加者が増え集団での活動に繋がることもある。
- ・散歩コースの一つである電車スポットではてんとう虫、だんご虫、アリなどと触れあっている。園庭ではプランターでトマト、ピーマンなどを栽培し、子どもたちは水やりをし、野菜などの成長を楽しんでいる。また、食材として使用したりしている。
- ・子ども同士でけんかが起きたときには、危険がないように見守りながら、タイミングを見て保育士は両者の言い分を良く聞いて対応している。特に0歳児、1歳児の場合は、お互いの気持ちをよく汲んで代弁したり、分かりやすく話している。
- ・健康な体つくりのためにも天気の良い日は散歩やプールなど屋外活動を積極的に取り入れている。時間がないときにも近くの駅スポットに行っている。
- ・子どもの発達段階に応じて、散歩には0、1歳児は階段のない仲尾台公園などに行っている。2歳児では運動能力を高めるためにも階段のある桜公園などに行くようにしている。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



・食事は早く食べる子ども、なかなか進まない子どもなどそれぞれいるが、保育士はその子どもに応じたペースで、言葉掛けや介助をしている。無理やり食べさせたりすることはなく、完食の喜びを持てるようにしている。

・授乳や離乳食については保護者と連携を図り、時間や量を検討しながら、子どものペースを尊重しながら行っている。

・献立は設置法人で作成しているが、季節感のある食材を取り入れている。また月に1回はお楽しみランチを行い、季節感を味わえるようになっている。

・食器は強化磁器製でコップはプラスチック製のものを使用している。スプーン、フォークは子どもが持って危険のない様な長さ、大きさのものを使用している。また、スプーン、フォークは0歳児には、やけど対策でプラスチック製、1歳児、2歳児はステンレス製のものを使用している。

・子どもの好き嫌いを把握して食欲を促すために、野菜や魚など量や盛り付けを工夫している。

・栄養士は配置されていない。調理担当者が食事を作っているが、調理担当者が日常的に保育室をまわり食事の様子を観察するに至っていない。

・献立表（離乳食用含む）は設置法人の担当部署で作成し、事前に保護者に配付している。

・設置法人と園が共同で「給食だより」を毎月発行し保護者に配付している。その中に献立の作成ポイント、旬の野菜、果物、レシピなど掲載している。また、玄関に毎日の給食のサンプルを展示している。

・午睡時には、保育室のカーテンを引き照明を落とし、オルゴールなどを流したりし子どもが安心して眠れる雰囲気を作っている。

・乳幼児突然死症候群（SIDS）を防ぐため仰向けに寝かせ、0歳児には5分おきに1歳児は10分おきに呼吸チェックを行っている。

・生活・睡眠記録簿（保育日誌）に子ども毎の排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄状況を把握している。また1、2歳児には、活動の節目にトイレを促しているが、強制はしていない。行きたいときにトイレに行っている。

<コメント・提言>

・2歳児のクッキング保育には栄養士が参加していますが、日常的に調理担当者が、子どもたちの食事の様子を見ると機会を作ることを期待します。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



- ・設置法人により、健康管理マニュアル、感染症への対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って、子ども一人一人の健康管理を行っている。
 - ・入園時に保護者から、入園前の健康状態や既往症などを「児童健康調査表」「お子さまの状況」に記入してもらい、日常の保育に参考にしている。
 - ・登園時に保護者から健康状態を確認し、職員も観察を行い、降園時にはその日の様子を伝えている。
 - ・定期健康診断は6月、12月の年2回行い、その結果を記録し、保護者に連絡している。
 - ・子どもが感染症にかかった場合の登園停止基準や保育中に感染症の疑いが生じた場合の対応がマニュアルに明記されている。「入園のしおり」「入園時の説明会」で保護者に説明し、周知を図っている。
 - ・保育中に発症した場合は、電話ですみやかに保護者に状態を連絡し、迎えにくるまでの間、他の子どもに感染しないように事務室の一角や空き部屋で過ごすようにして留意している。
 - ・感染症発生時には、玄関に掲示して保護者に情報提供している。
 - ・地域の感染症の発生状況については、中区役所、園医や設置法人から情報提供があり、すみやかに全職員に周知し共有している。
- <コメント・提言>
- ・横浜保育室の歯科健診は、基準として義務付けはありませんが、今後、健診する方向で検討することが期待されます。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



- ・設置法人により、衛生管理マニュアルが整備されている。
- ・マニュアルは年1回、職員会議で全職員による読み合わせを行い、このように修正した方がよいという箇所を園長に進言し、本部へ連絡し、見直しをしている。
- ・マニュアルに沿って園内外は清掃が行われ、漏れがないよう清掃記録表にてチェックし、各保育室は清潔に保たれている。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- ・設置法人により、安全管理マニュアルが整備されている。
 - ・地震対策として布団庫には突っ張り棒を、ロッカーには耐震シールや滑り止めシートを使用し、家具の転倒防止を図っている。
 - ・地震・火災を想定した消火、通報訓練を毎月実施している。緊急連絡網が明示され、園長を隊長に役割分担が明確に決まっており、緊急時の職員の行動が明確となっていて、迅速に対応出来るように訓練を実施している。
 - ・日本赤十字社の「幼児安全法」の研修を既に常勤職員5名中4名が受講し、受講後は内容を職員会議で報告して、他の職員も情報を共有している。
 - ・事故や怪我が発生した場合は、園長が把握して保護者にすぐに連絡が必要かどうかを判断し、記録している。降園時には必ず保護者に状況を説明し、伝えている。
 - ・事故の報告はアクシデントレポート、事故のヒヤリハットはインシデントレポートに記録しておき、職員会議などで話し合い、原因を究明し、改善内容を話し合い、事故防止などを話し合い、再発防止に努めている。
 - ・玄関はオートロック式になっており、インターフォンで訪問者の顔を確認してから解錠するようになっている。
 - ・警備会社と契約し、緊急通報装置を常備し、戸外に出掛けるときは、携帯用緊急通報装置と携帯電話を持参している。
 - ・不審者情報は、中区役所情報「ポリスネット」、警察署、近隣の保育園から随時連絡が入る体制になっている。
- <工夫事例>
- ・「生活記録簿」には、家からのケガは黒字、園でのケガは赤字で子どもの状況を記入している。

評価分類

評価の理由（コメント）

II-3 人権の尊重



- ・子どもへの言葉遣い、対応については日々の保育の中で相互に配慮し、職員会議でも話し合っている。
- ・子どもに接するときは、職員はゆっくりと分かりやすい言葉を使い、「早く行ったらいっぱい遊べるよ」と話したり、間違った行為はその場で説明し、「どうしてもしたかったんだね」とおだやかに話をし、子どもの気持ちを受け止めるようにし、発達や年齢に応じて丁寧に対応している。
- ・個人情報の取り扱い、守秘義務については、横浜市の個人情報取扱いガイドラインにより常に全職員へ周知し、保護者へはクラス懇談会で説明し了解を得ている。
- ・個人情報が記録してある書類ファイル類は事務所内の施錠の出来る場所に保管し、園外持ち出しは禁止している。
- ・名簿は誕生日順にしており、遊具、持ち物、服装、行事・役割、色、名前シールなど性別による区別せず、順番、グループ分け、整列を男女別に分かれたりはしていない。
- ・子どもや保護者に対して話すときは、女の子だから、男の子だからという観念を持たず、表現内容に気を配っている。

II-4 保護者との交流・連携



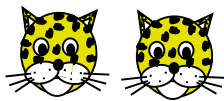
- ・保育の基本方針については、入園後の保護者会で説明している。
- ・保育方針は年度初めの保護者会で運営方針や基本方針、園目標、保育課程等を説明している。保育方針、理念は「入園のしおり」に記載している。
- ・保護者の個別面談は年2回、保護者会は年3回行い、保育参加、保育参観はそれぞれ年1回実施し、欠席者には後日保護者に説明している。
- ・個別の相談は、0歳児の保育室を利用し、個人情報が出ないように配慮している。相談を受けた職員は、園長に報告し、いつでも助言が受けられるようになっている。
- ・相談記録は、「相談記録票」に記録し、各園児の個人ファイルに綴り、相談内容は職員全体に伝え、全ての職員が対応できるようにしている。
- ・保護者には、年度初めに年間行事予定表を配付し、園だよりには2か月分の行事を載せて予定を伝えている。「やまてほいくしつだより」は毎月1回発行している。行事などのお知らせについてはその月と次月分の2か月掲載し、早めにお知らせしている。
- ・保育参観は、1週間の設定で行い、参加できなかった保護者には再度日程を設定している。また、保育参加については、5月に親子遠足で野毛山動物園へ行き、参加できなかった保護者には、書面でその日の様子を配付している。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供





- ・地域の子育て支援ニーズについては職員会議で話し合い、一時保育の実施に向け話し合いを行い、2歳児以下の子ども「一時保育」を実施している。
- ・園では中区こども家庭支援課主催の研修やイベントへの参加、子育て支援に関する区役所との話し合い、約30名参加の中区園長会の会議に出席し子育て支援に関する情報交換を行っている。
- ・地域の子育て相談に対応できるようにしているが、実績がない。


<コメント・提言>


- ・園行事の参加者や見学者など地域の人々から直接、子育て支援ニーズの把握を期待します

評価領域IV 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りの案内ポスターを園の玄関に掲示したり、卒園児に招待状を発送している。夏祭りではゲーム、唐揚げ、ブランコの券を発券し、散歩時には地域の方に挨拶し、地域の方の参加を呼びかけ地域の子どもの参加を得ている。 ・散歩で商店街を通るとき、出会う方には積極的に挨拶を行い、商店街の魚屋さんとは顔馴染みとなっている。また、クッキングの際の食材の野菜、卵を商店街で買い物して友好を深めている。 ・運動会のポスターを中区役所に貼り、パンフレットも置いている。また、中区の行事のポスターなどの掲示物を園に掲示している。 ・中区のグランマ保育園事業に参加し、区が購入した絵本を、地域の方などへ貸し出しを行っている。 ・園の遠足では、根岸森林公園、野毛山動物公園、横浜ズーラシア、臨港パークそしてはまぎん宇宙センターなどの施設を利用している。
<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページには、園の運営理念やサービス内容、クラスの様子、利用料金などを掲載している。 ・中区の子ども家庭支援課にはパンフレットを置いてもらい、園見学や入園の情報を提供してもらっている。 ・地域情報誌「まみたん」に園の様子を伝える情報を提供している。 ・園の掲示板にサービス内容、料金など掲示している。近隣の商店、中区地区センター、大和町郵便局などに園児募集のポスターを掲示してもらい、地域に情報提供している。 ・入園希望の問い合わせがあった時には、見学が出来ることを伝え、見学希望者の都合に合わせて希望の日時を聞いて、保育に差し支えないように対応している。 ・見学者には、園の運営理念やサービス内容、料金や職員体制などについて詳しく記載した「入室のご案内」を渡し説明している。 ・子どもがおやつを食べるところを見学してもらったり、夫婦で熱心に見学に見える方もいる。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は園運営に十分な人材構成であるかを常にチェックし、必要時には設置法人と相談の上、補充を行っている。 ・設置法人が職員の階層別に研修計画を策定し、園の理念・方針をふまえた保育をするための人材育成を図っている。 ・職員の年間研修計画では、常勤・非常勤とも研修会に参加することができ、園長が受講希望を把握している。 ・職員は個人目標を立て、園長に提出している。職員は前期・後期に自己査定シートに基づき評価を行い、園長と面談の機会もあり、半期毎に振り返りをして達成度を確認、評価し、次年度につなげている。 ・中区主催の研修にも積極的に受講するように勧めている。 ・研修受講後は研修レポートを提出し、職員会議で報告し、職員間で閲覧して共有し、実践に活かすように努めている。 ・研修成果の見直しは年度初めに行い、次年度の年間研修計画策定につなげている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程から年間指導計画、月案、週案の計画書は、定型化された書式に「評価・反省」欄が設けられており、実践の振り返りを必ず記入するようになっている。 ・月間指導計画などの評価・反省欄には子どもの様子などを記述し、振り返りは計画で意図としたねらいと関連づけて行っている。 ・年間、月間、週案の「評価・反省」を記載する欄や振り返りも子どもの様子を実践面でみて、評価などを書き次の計画作成に反映させている。 ・職員は年間目標を立て、自己評価表を記入し、年2回の査定・昇級時に、園長と面談を行い、自己評価について話し合い、サービス内容を再確認している。今回の第三者評価を通して振り返りを行っている。 ・職員は第三者評価を通して振り返った結果を職員会議にて話し合っまとめ、受審結果をホームページへ公表している。 ・職員会議で話し合った結果をまとめ、園としての今後の課題を明らかにし、次の計画につなげている。 ・自己評価は、園の理念や保育方針、保育課程と照らし合わせて行っている。 ・設置法人のグループ企業内の臨床心理士の専門的な指導を受けたり、感染症対策や電話対応のDVDにて研修を受講できるような仕組みができています。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ・設置法人は、経験年数に応じた知識や技術、能力や習熟度の期待水準を記した計画を策定している。
- ・園長は子どもやクラスの状況に応じて可能な限り、現場の職員に権限を委譲し、最終的な責任を園長がとる体制となっている。
- ・園長とエリアマネージャーが職員一人一人と面接を行っており、提案、意見を聞く機会となっている。毎月の職員会議でも提案をしたり、意見を言い易い状況になっている。
- ・園長と職員の面接時には、職員の満足度や要望なども確認している。チューター制度があり、先輩保育士がチューターとしてつき、チューターレポートを記入し、面接時に印象、様子などを聞き、今後のフォロー計画に役立てるシステムとなっている。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則の中の倫理に関する規定があり、事務所に備え付けられいつでも確認できるようになっている。また、入社時に法人代表による法令遵守、倫理などについて研修を受け職員に周知している。 ・他施設での不正や不適切な情報は主として設置法人から届くようになっていて、それらの情報は園長会議でも話し合いが行われている。入手した情報は職員会議を通じ職員に周知している。 ・廃材（牛乳パックなど）を利用し遊具や装飾物を作ったり、失敗したコピー用紙を個人情報に注意し再利用している。また、ペットボトルの蓋を集めエコキャップ活動を行っている。 <p><提言・コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園ではごみの減量化、リサイクルなど積極的に行っています。環境への取り組みを明文化し計画的に取り組むことを期待します。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針、園目標を玄関ホール目の目に付きやすい位置に掲示している。また、職員には運営方針、基本方針、園目標などが記載されている保育課程を全職員に配布している。 ・重要な意思決定、例えば行事の日程や内容などについて、園長は運営委員会、保護者会などで保護者の意見を聞くようにしている。 ・園が重要な意思決定をした場合、例えば年間行事の変更、布団の利用方法の変更などはその目的、決定理由など職員には職員会議で保護者には保護者会で説明し理解を求めている。 ・小規模園なので主任は置いていない。園長が主任の役割を担っている。 ・園長は必要な時は保育現場や会議などを通じ職員の能力や経験に合わせ個別に指導を行っている。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響のある情報収集・分析は設置法人の担当部署で行っている。それらが送られてくると、園では必要に応じ検討し、中長期計画（2010年～2012年）を作成している。 ・設置法人の担当部署で収集・分析された情報は隔週で開催される園長会議で検討されている。また、必要に応じて、園長は園長会議での内容を職員会議などで報告し、話し合いをしている。 ・運営に関して設置法人で外部の機関や専門家などから積極的に意見を取り入れている。

施設名： アスク山手保育室様

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

利用者家族アンケート

結果の特徴

◇アンケート回収率 対象家庭数19 アンケート回収数12 回収率63%

◇総合満足度

施設に対する総合的評価の満足度(満足とどちらかといえば満足を合わせたもの)は、100%という高い結果となった。

◇非常に満足度の高い項目(満足度が100%)

1. 園の基本方針について

「よく知っている」と「まあ知っている」は合わせて67%であるが、そのうちの100%が基本方針に共感している。

2. 入園した時の状況では、1日の過ごし方の説明が100%である。

3. 日常の保育 遊びについて

遊びを通じた友達や保育士との関わりが100%である。

4. 日常の保育 生活について

給食のメニューの充実と体調への気配りが100%である。

5. 保育園の快適さや安全対策について

不審者侵入に対する備えが100%である。

6. 園と保護者との連携・交流について

園だよりや掲示などの情報提供が100%である。

7. 職員の対応について

アレルギー対応についてその他回答が25%あるほか、すべての項目で満足度が100%となっている。

◇比較的満足度の低い項目

1. 園の基本方針についてよく知っている、まあ知っているとを合わせて67%と、低くなっている。工夫が必要であろう。

2. 入所時の費用や決まりに関する説明の満足度が75%となっている。

3. 保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応の満足度が83%である。

調査結果

■保育室の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	9%	58%	25%	0%	0%	8%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への共感	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	63%	37%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入所した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	50%	42%	0%	0%	8%	0%
	その他: 見学を希望しなかった。					
入所前の見学や説明など、園からの情報提供については	42%	50%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
保育室の目標や方針の説明には	25%	67%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	42%	42%	8%	0%	8%	0%
	その他: 面接なし。					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	50%	50%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
入所後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	42%	33%	25%	0%	0%	0%
	その他:					

問3 保育室に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	42%	50%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	34%	58%	0%	0%	8%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	50%	42%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	75%	17%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
保育室のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	59%	33%	0%	0%	8%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、施設外活動については	33%	67%	0%	0%	6%	0%
	その他:					
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	58%	42%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	50%	33%	0%	0%	17%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食のメニューの充実については	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	50%	42%	0%	0%	8%	0%
	その他:					

基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	84%	8%	0%	0%	8%	0%
	その他：まだ取り組んでいません。					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	75%	17%	0%	0%	8%	0%
	その他：いろいろ工夫してもらっているが、寝られなくて悩んでいる。					
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	59%	33%	0%	0%	8%	0%
	その他：まだ取り組んでいません。					
お子さんの体調への気配りについては	75%	25%	0%	0%	0%	0%
	その他：					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	66%	17%	17%	0%	0%	0%
	その他：					

問5 保育室の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園舎、園庭などの施設については	50%	42%	8%	0%	0%	0%
	その他：					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	50%	42%	8%	0%	0%	0%
	その他：					
外部からの不審者侵入に対する備えについては	42%	58%	0%	0%	0%	0%
	その他：					
衛生管理や感染症対策については	50%	34%	8%	0%	8%	0%
	その他：					

問6 保育室と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	33%	42%	8%	0%	17%	0%
	その他：まだ参加したことがない。					
保育室だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	58%	42%	0%	0%	0%	0%
	その他：					

保育室の行事の開催日や時間帯への配慮については	59%	33%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	58%	25%	17%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	58%	25%	17%	0%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	67%	25%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	58%	17%	8%	0%	17%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育室生活を楽しんでいるかについては	50%	50%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	50%	25%	0%	0%	25%	0%
	その他:よくわかりません。					
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	75%	25%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
不満や要望への対応については	58%	42%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問8 保育室の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	50%	50%	0%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

アスク山手保育室

◇0歳児

午前の遊び（0歳児～2歳児異年齢保育）

他の子どもが水遊びの時間に、0歳児2名は、水遊びをしない1歳児1名、2歳児3名と一緒に遊んでいる。1歳児と2歳児はブロック遊びや機関車のレールを取り出し思い思いに遊んでいたが、0歳児の一人は、はいはいしながら電話の玩具と戯れ、コードを引っ張ったり、電話をなでたりしていた。他の一人は最近入園したためほとんど職員に抱っこされていた。

食事

食事は離乳食で今日のメニューはおかゆ、スープ、おかずはにんじん、キャベツ、鶏肉を小さく刻んだものである。2名とも食事用エプロンを付け、テーブル付椅子で食事をするが、1名が泣き出し職員が抱っこしながら食事を始めた。職員がスプーンで食べさせるケースも見受けられたが、無理に食べさせる雰囲気はなかった。

授乳

食事（離乳食）終了後午睡前に、園で作ったミルクを、子どもの成長に沿って量を調整し、職員が「これ美味しいよ」などと声を掛け抱っこをしながら飲ませている。子どもがミルク瓶をつかもうとする場面や満足そうな笑みをたたえる場面も見うけられた。

◇1歳児

水遊び（1歳児、2歳児異年齢保育）

水遊びについては、保護者からプールカードを書いてもらい水遊びをしていいかどうかを確認している。園庭に小さなビニール製の簡易プールが用意され、子どもたちは様々な遊びに興じている。プールでの遊びは2歳児がほとんど独占している。数種類の水鉄砲で水を掛け合ったり、魚釣りセットで魚釣りのまねごと、あるいはコップにアンパンマンのボールを入れたりして遊んでいる。1歳児は大小さまざまなバケツの中に入っている水に手を浸していたが、1歳児で一人だけプールのそばで2歳児の子どもたちと楽しそうに遊んでいる姿が印象的だった。

食事

職員に食事用エプロンをつけてもらい、今日のメニューの紹介を聞き、給食の歌を歌い全員で「いただきます」を言ってから食事を始める。黙々と食べる子ども、あまり食事が進まない子どもなど様々である。職員がフォークの使い方を指導している場面も見うけられた。また、殆ど手づかみで食べている子ども、食事の早い子ども、遅い子ども様々で、子ども達は思い思いのペースで食事を進めている。職員に「〇〇ちゃんおかずも一緒に食べようよ」と促されている子どもやお替りをする子どももいた。食後は一人一人がご馳走様をしてから歯磨きを行っている。

排泄

トイレ誘導はおおよそ一時間おき、あるいは活動の節目に行われている。職員は子どもたちに、排便の有無に関わらず優しい言葉掛けを行っている。指示によりパンツを脱いでからトイレに行っているが、パンツをはいたままトイレに行く子どももいたが、その場面では職員は優しく注意していた。

午睡

食事が終了後、順次食卓テーブルの前で、各自自分で歯磨きを入っているが、職員が仕上げを行っている。歯磨きが終わった後、隅の方で、ほぼ全員が自分の気に入った絵本を取り出し、自由に遊んでいる。全員着替えが終わった時点で職員が睡眠に関する絵本を読み、子どもたちに睡眠を促していた。その後、全員揃って午睡の部屋に移動した。午睡のスペースでは消灯し、窓にはカーテンをかけ暗くして、カセットデッキ（オルゴール）を使用し入眠しやすい環境にしている。布団の準備ができ次第子ども達を布団に誘導し、直ぐ眠りにつく子どもや眠れない子どももいるが、職員は眠れない子どもにはトントンをしているうちに安心して眠りについた。

おやつ

全員揃っておやつの歌を歌い、「いただきます」をしてから食べ始める。メニューはホットケーキ、牛乳、グレープフルーツの3点でホットケーキは全員手づかみだった。遅い子ども、早い子どもばらばらで、全員美味しそうに食べている。牛乳を飲んでいる時、ある子どもが失敗しても職員はとがめることなく「牛乳さんごめんなさい」と言っていた。また、グレープフルーツはホットケーキに比べ人気がなく残す子どもがいたが、職員はグレープフルーツを絞り、ジュースにして飲ませていた。

◇ 2 歳児

午前の遊び

今日は天気が良く、午前 10 時半頃より、ビニールプールで水遊びが始まった。水着に着替えてプール遊びに夢中である。プールの中では 3、4 人ビシャビシャ水を飛ばし、まわりで 4、5 人がペットボトルに水を入れてジュース屋さんごっこや水鉄砲で遊び、職員が 3 人見守っていた。

順番にプールに入っている。保護者には予め 7 月中旬からプール遊びを開始すると予告してある。T シャツ、水着とおむつ、タオルを準備するように伝えている。2 歳児は黄色の帽子をかぶり、1 歳児は赤色の帽子をかぶって水遊びをしている。プールで遊ばない子どもは、職員と一緒に積み木ごっこなどをして遊んでいた。

食事

プール遊びの後、自分のタオルで体を拭き着替えている。職員がホットケーキの本を読み、子どもたちはお行儀よくお座りして絵本をのぞいている。その間に他の職員が昼食のお膳を並べ食事の準備をする。調理人が食事を運んでくる。

月齢の高い子どもが他の子どもにエプロンを付けてやっている。職員が今日の「お献立はごはん」「春雨スープ」「がんもどき」などと説明し、みんなで声を合わせて「それではいただきます」と言って食事を食べ始めた。食事をスプーンとフォークを上手に使って食べる子ども、ぼろぼろとこぼす子ども、手づかみでおかずを食べる子どもなどまちまちである。食事の終わりには手を合わせて、「ごちそうさまでした」と大きな声を出して挨拶をしていた。食事を食べ終わった子どもは自分で片付けをして、歯磨きの仕上げをしてもらっている。

午睡の様子

子どもたちは、給食が終わり、排泄をすませてからパジャマに着替えている。自分で上着を床に置いて、上手にかぶって着替えている。職員が布団を敷き、子どもは自分の布団を見つけて横になった。

午睡時、職員がなかなか寝付かない子どものそばで、トントンと軽くたたいて寝付かせていた。

おやつ

おやつは子どもたちの大好きなホットケーキと牛乳である。早く食べたいのをこらえてホットケーキをじっとみつめている。お当番の 2 人の子どもが大きな声で「ご用意はよいですか」「よいです」「それではみなさん、ごいっしょにいただきます」「いただきます」と食べ始めた。フォークを上手に使い、小さく切って食べる子ども、なかなかうまく食べられない子どもさまざまである。

平成 24 年度 第三者評価事業者コメント

(アスク山手保育室)

【受審の動機】

昨年第三者評価を受審したことで、これまでの園運営を振り返ることができ、今後の課題を見出すことができたことから、有効な手段であると感じたため、今年も引き続き受審させていただきました。また、評価機関の選定については、昨年と同じ機関に評価を依頼し、一貫した調査を受けることによって、昨年度ご指摘いただいたことがどの程度できているかということの比較がしやすいと考えました。

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。皆様にご理解ご協力いただきましたおかげで、保護者の方々から感謝の言葉をいただく事ができました。今後も常に利用者のニーズに耳を傾け、子どもたちや保護者に親しまれる園でありたいと考えております。

【受審した結果】

自己評価における自園の見直しは、問題を明確にしていく上で大変重要であり、新たな気づきが得られる良い機会となりました。全職員が同時期に保育を見直すことで、運営方針や理念、今後園の目指していく方向性を再確認することができました。それにより、職員の意識が高まり、保育の質の向上につながっていくと感じています。

今後の課題として、以前からご指摘いただいている地域への子育て支援については、さまざまなイベントを企画し、地域に開けた保育園を目指して生きたいと思っています。また、利用者家族アンケートの結果からニーズや問題点を把握し、今まで以上にお子様の様子を共有できるよう、保護者とのコミュニケーションを更に図っていく所存です。

今後も「利用者が本当に求める保育サービス」を提供していけるよう、職員一丸となって努力してまいります。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。